

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (27) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(27)—

1. 始めに

前報(26)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と Garrad401 を使用します。

Garrad401 は、Maraz7 タイププリの傾向が分ってきましたので、Maraz7 タイププリ経由から再び 47 研 4718 経由に戻してみます。即ち、Garrard 401 の再構成(16)の条件に戻します。

Garrad401→47 研 4718→TruPhase

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。また、Garrad401、47 研 4718 には、Crystal E を接続しています。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、アンサンブルの曲です。

GARNET G 40 129

モーツアルト Musik zu Einer Pantomine

Marsch

Hubert Guenther 指揮バイエルンシュターツカペレ室内オーケストラ

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

GARNET 盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。LINN LP-12 の再生では、このオーケストラの GARNET 盤は初めて聴くものですが、歯切れよく小気味よい演奏で、切れ味の良い音です。

Garrad401 の再生では、基本的には LINN LP-12 の再生と同様ですが、やや大人し目のソフトな印象となります。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入などの総合的な効果として、歯切れよく小気味よい演奏で、LINN LP-12 と Garrad401 それぞれの特徴が活かされています。

以上